

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

次 第

〔 日 時 令和2年3月26日(木) 15:00～16:30 〕
〔 場 所 伊那合同庁舎 講堂 〕

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

- (1) 県の組織改正について
- (2) 上伊那産業振興会のアンケート調査の状況について
- (3) リニア開業を見据えたまちづくり講演会の開催結果について

4 協議事項

リニアバレー構想実現プラン（仮称）基本方針（案）について

5 リニア駅周辺整備の検討状況について

6 閉 会

(別 紙)

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議
出席者名簿

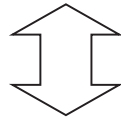
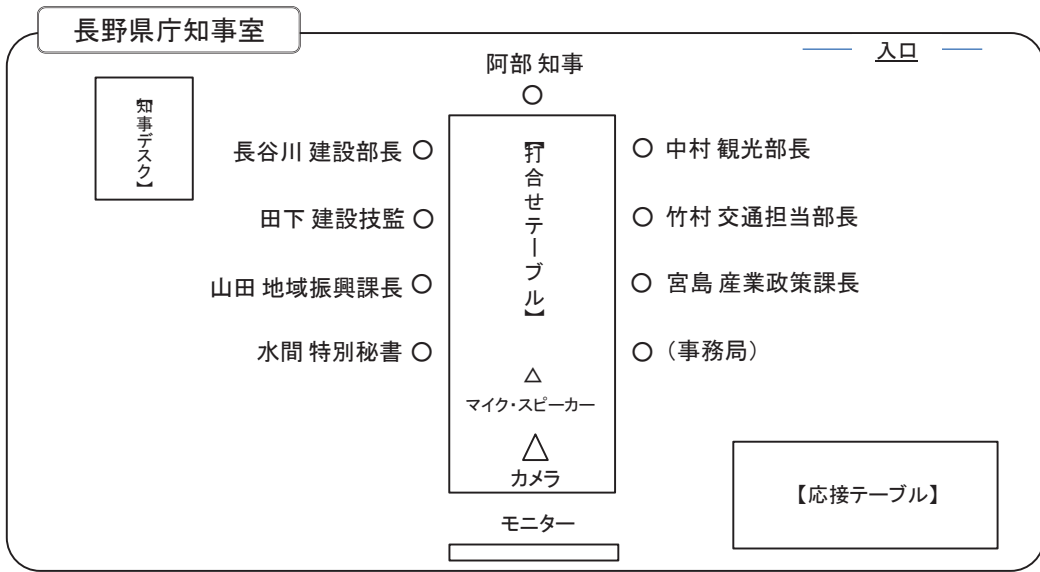
(敬称略)

職 名	氏 名
知 事 (座長)	阿部 守一
飯田市長	牧野 光朗
伊那市長	白鳥 孝
駒ヶ根市長	伊藤 祐三
南信州広域連合 (平谷村長)	小池 正充
上伊那広域連合 (南箕輪村長)	唐木 一直
上伊那地域振興局長	佐藤 公俊
南信州地域振興局長	丹羽 克寿
伊那建設事務所長	高橋 智嗣
飯田建設事務所長	丸山 義廣
リニア整備推進局長	坂田 浩一

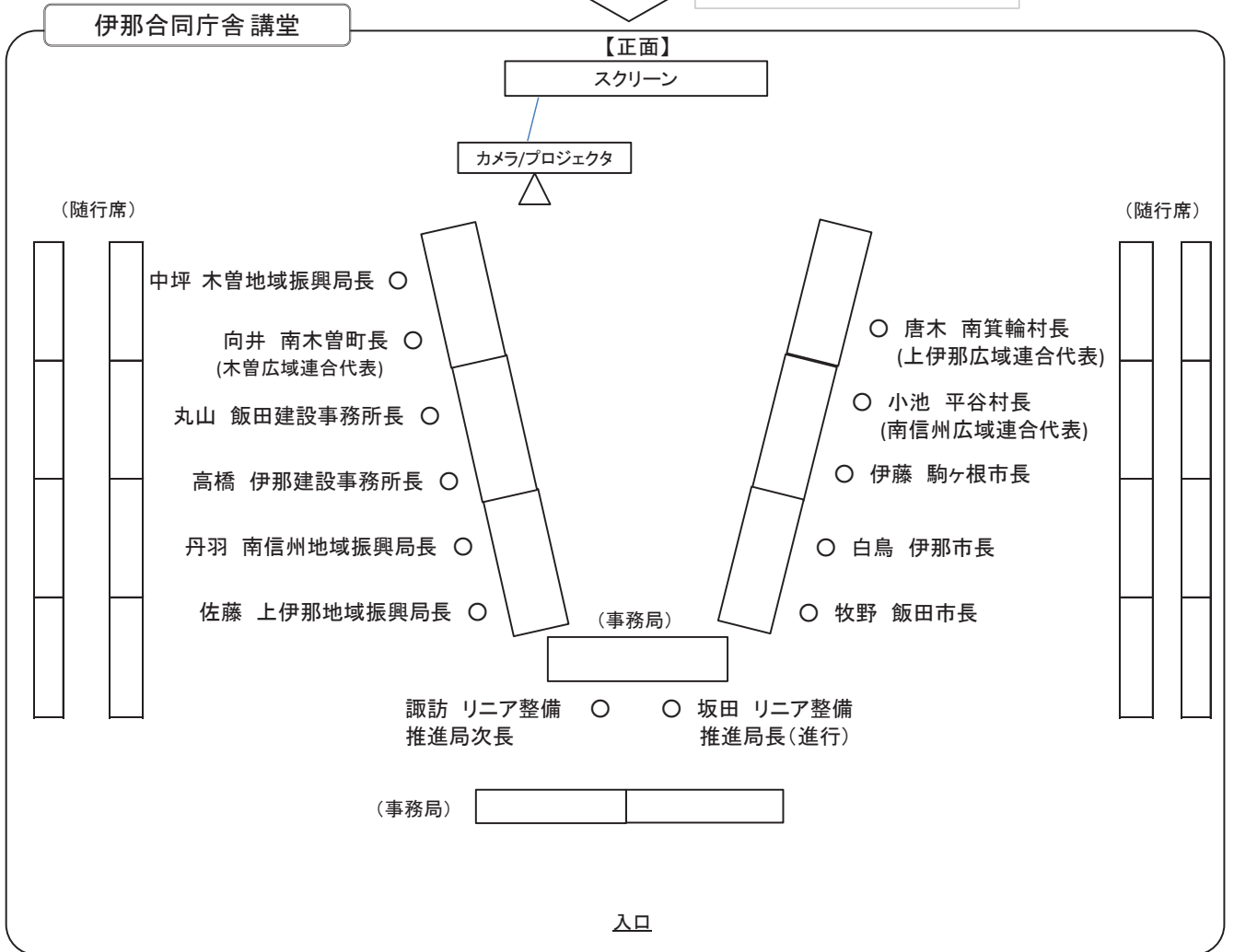
■ オブザーバー

職 名	氏 名
木曾広域連合副連合長 (南木曾町長)	向井 裕明
木曾地域振興局長	中坪 成海

伊那谷自治体会議 配席図



・知事室と合庁講堂をネット回線で結ぶWEB会議



令和2年4月 組織改正について

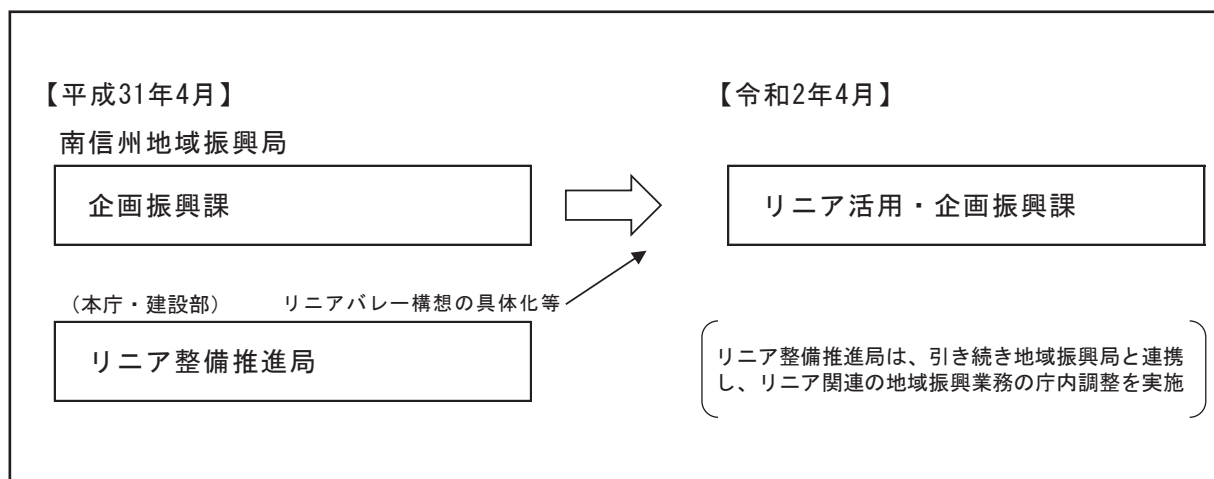
リニア整備推進局の「地域振興担当」を南信州地域振興局へ移管

1 改正内容

- ・リニアバレー構想の具体化や伊那谷自治体会議の運営など、リニア整備推進局の地域振興に関する業務を南信州地域振興局に移管
- ・南信州地域振興局にリニア活用推進担当の副局長を配置するとともに、「企画振興課」を「リニア活用・企画振興課」に再編し、2名増員

2 目的

- ・リニア開業まで7年となり、関連する地域振興策は構想から実行の段階に移行
- ・地域の関係機関等とより密接な連携体制を構築し、リニアを活かした地域振興の取組を加速化する



上伊那産業振興会のアンケート調査の状況について

建設部リニア整備推進局
(伊那谷自治体会議事務局)

1 上伊那産業振興会のアンケート調査について

リニア開業を契機とした上伊那の魅力ある地域づくりに向け、上伊那産業振興会において関係機関に調査を実施。

【調査対象】

上伊那地域の商工会議所、商工会、青年会議所、市町村、DMO等
東京・名古屋在住の上伊那出身者

(1) 第1回アンケート (R元.11~12実施)

リニア開業に向け、各主体が考える取組案を調査

【項目】

- ①リニアを活かした産業振興
…企業支援の強化、ビジネスメリット・スタイルの創出 等
- ②信州暮らしの魅力向上
…移住定住の魅力創造 等
- ③広域観光の推進
…知名度アップ、PR強化 等
- ④良好なアクセスの確保
…二次交通の充実 等
- ⑤魅力ある駅空間の創造 等
…駅空間の有効活用 等

(2) 第2回アンケート (実施中)

上記集計結果(取組案)の具体化に向け、各主体で実行可能なものを調査
⇒R2.3月末締切

2 リニアバレー構想実現プラン(仮称)への反映

第2回調査の集計結果を踏まえ、必要なものはリニアバレー構想実現プラン(仮称)に取り込み、連携した取組を進めていく。

リニア開業を見据えた まちづくり講演会

日時

令和2年
1月29日(水) 10:30~12:30

場所

エス・バード ホール (長野県飯田市座光寺 3349 - 1)

【第1部 基調講演 40分】「まちの未来をこの手でつくる」

■ プロフィール

1972年岩手県紫波町出身。日本大学理工学部土木工学科卒、東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻修了。地域振興整備公団(現:都市再生機構)入団後、建設省都市局都市政策課などで地域再生業務に従事。

現在はオガールプロジェクトの中核である(株)オガール(オガールベース)、オガールプラザ(株)、オガールセンター(株)代表取締役として、紫波町の公民連携事業を企画推進している。同プロジェクトは「2013年土地活用モデル大賞」において、最高賞の国土交通大臣賞を受賞するなど注目を集めており、全国各地の地域づくり指導・講演活動に奔走している。2018建築学会賞業績賞受賞。

株式会社オガール 代表取締役
オガールプラザ株式会社 代表取締役
オガールセンター株式会社 代表取締役
一般社団法人公民連携事業機構 理事
内閣官房地域活性化伝道師

岡崎 正信 氏

【第2部 パネルディスカッション 60分】

「リニア開業を見据えた魅力あるまちづくり」

■ ファシリテーター 岡崎 正信 氏 (基調講演 講師)

■ パネリスト 伊那商工会議所 青年部 熊谷 沙織 氏

昭和53年生まれ。6才と2才の二児を子育て中。伊那市にて飲食店経営の傍ら伊那商工会議所青年部、伊那青年会議所に長年在籍し、まちづくり運動を行う。

2018年度、青年部にて会員交流・拡大委員長を務める。同年、伊那青年会議所卒業。

一般社団法人駒ヶ根青年会議所 理事長 新井 亮太 氏

昭和60年生まれ。新井電気工業(株)に入社と同時に(一社)駒ヶ根青年会議所へ入会。7年の活動期間の中で(公社)日本青年会議所副委員長や長野ブロック協議会委員長などの経験を経て、令和2年1月より現職。

一般社団法人飯田青年会議所 リニア時代研究室 副理事長 阿部 俊平 氏

2018年4月(一社)飯田青年会議所 入会、2019年度 共創若者委員会委員長

2020年度 リニア時代研究室 副理事長

本業 下伊那日通プロパン販売(株)取締役部長

「リニア開業を見据えたまちづくり講演会」アンケート結果

1 実施日 令和2年1月29日 リニア開業を見据えたまちづくり講演会において実施

2 回収数 139名（講演会参加者数 約200名）

3 結果

(1) 所属団体等 経済団体 22、民間企業・団体 25、議会関係 22、行政機関 65、その他 5

(2) 居住地 諏訪地域 7、上伊那地域 47、下伊那地域 80、木曾地域 1、その他 4

(3) リニア中央新幹線の開業に向けて、**地域として必要と考える取組**（3つまで）

取組 所属	リニア駅 からの 二次交通 の整備	移住定住・ 二地域居 住の促進	産業の 振興	自然環境 の保全・ 活用、景 観形成	広域観光 の推進	産業を担 う人材育 成	観光資源 の発掘・ 磨き上げ	テレワー ク・ワー ケーション の推進	自動運 転・MaaS の導入検 討	大都市圏 等への情 報発信	先端産業 の誘致	農林産品 等のブラ ンド化	外国人観 光客の受 入環境整 備	CO2排出量 削減・再生 エネルギーの 普及促進	その他	計
経済団体	10	10	7	2	5	5	7	3	1	6	1	4	2	0	3	66
民間企業・ 団体	11	6	12	7	7	6	5	3	4	5	6	3	2	2	0	79
議会関係	10	8	5	9	3	3	4	5	3	2	1	3	2	2	1	61
行政機関	39	30	18	15	17	13	11	10	10	4	6	4	4	1	4	186
その他	1	3	1	2	2	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	14
計	71 (17.5%)	57 (14.0%)	43 (10.6%)	35 (8.6%)	34 (8.4%)	29 (7.1%)	28 (6.9%)	21 (5.2%)	18 (4.4%)	17 (4.2%)	15 (3.7%)	15 (3.7%)	10 (2.5%)	5 (1.2%)	8 (2.0%)	406

伊那谷の「課題」と「可能性」	
社会の変化	地域経済の課題
<ul style="list-style-type: none"> ■ 急激な人口減少・高齢化、首都圏への人口流出 ■ 生産年齢人口の減少 ■ Society5.0の実現で経済社会が大きく変貌(製造系雇用の減少、IT人材の不足) ■ 世界経済に占める日本経済の地位低下 ■ 「物の豊かさ」から「心の豊かさ」への価値観の変化 ■ 求められる教育環境の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口減少・流出。高齢化率が高く、地域の担い手が不足 ■ 豊かな自然環境が移住、観光誘客等に活かされていない ■ 外国人旅行者数が少ない。日帰り観光が多く、一人当たり観光消費額が少ない ■ 自家用車以外の移動手段が脆弱 ■ 国内外で、この地域の認知度が低い ■ 全産業に占める情報通信業の割合が低い

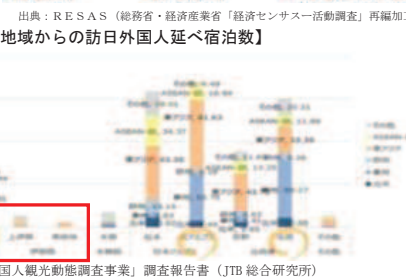
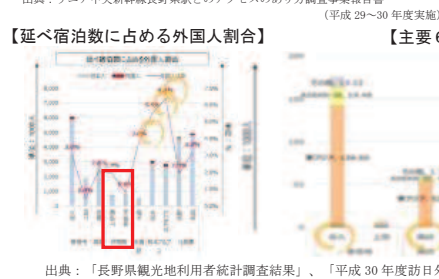
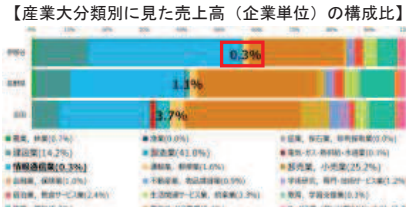
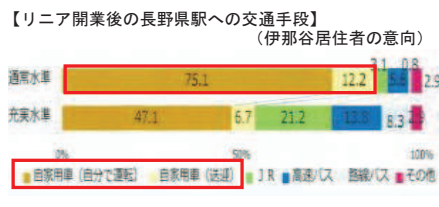
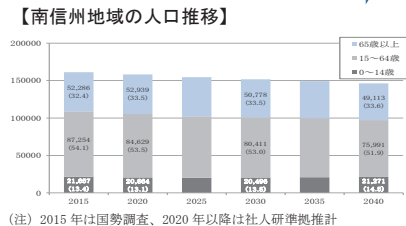
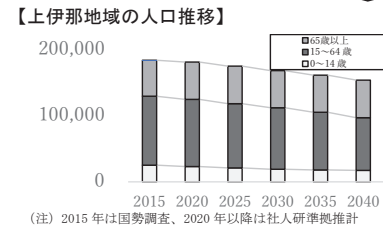


伊那谷地域の4つの可能性 (目指すべき方向性)

- 人口減少に負けない持続可能な地域をつくる
- 〜大都市圏にない地域の価値を見出し、創り出し、磨き上げよう〜
- 雄大なツインアルプスと天竜川が織りなすダイナミックな自然環境を活かす
 - 良好な自然環境のもとで生活しながら大都市の利便性を享受できる立地を活かす (東京は行くところ! 伊那谷は住むところ!)
 - 国際空港、三大都市圏等へのアクセスの良さを活かす (国内外からヒト・カネを引き付ける)
 - リニアがもたらす新たなヒト・情報の流れを、産業・研究・人材育成等に活かす

伊那谷地域の戦略的チャレンジ(具体的な取組)

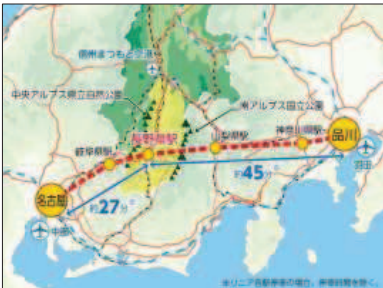
- 豊かな自然環境と地の利を活かした持続可能な地域づくり
- 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす
 - 景観形成、共通サイン整備 【三風の会+南信州広域連合】
 - 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)
 - 移住定住・二地域居住のための住環境整備【市町村】
 - 自然を活かした教育環境の充実【市町村】
 - 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】
 - 国内外から人を惹きつける地域をつくる
 - 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備【広域DMO+観光機構】
 - アルプス等自然環境の活用【県環境部】
 - 伝統文化の保存継承、活用【南信州広域連合】
 - 国際交流・語学教育の推進【市町村】
 - 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】(再掲)
 - 地域を支える産業の活性化
 - グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】
 - 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】
 - 産・学・官・地域の人的交流の場(ナレッジスクエア)の形成【市町村】
 - 地元産業の育成・高付加価値化【経済団体・市町村】
 - 産業を支えるインフラ整備【県・市町村等】
 - 農畜産業、食品産業等の活性化(アグリイノベーション)【伊那谷アグリイノベーション推進機構・JA・市町村】
 - 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】(再掲)



リニア開業に伴う今後の可能性

- 大都市圏と同一の交通圏
- 都市空間と自然環境空間が近接
- リニア、高速道路、北陸新幹線で「本州中央部広域交流圏」を構築
- 国際空港、国際戦略港湾へ1時間でアクセス

- 新たなライフスタイルが実現することにより、移住・二地域居住が促進
- インバウンドを始めとする観光客が増加、観光消費額が増加
- 新たなヒトの流れが創出されることにより、産業・研究・人材育成等が促進



赤字：リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの
 黒字：既に取り組が行われており、各機関において進めていくもの
 ※【】内は各取組の主体(事務局)となる機関

リニアバレー構想実現プラン(仮称)の取組優先度の整理

